

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫

両団体理事長 半 田 晴 久

環境技術委員長 坂 本 忠 彦

両団体専務理事 清 原 淳 平

環境技術委員会のお知らせ (第352回)

日 時 平成30年11月22日(木) 午後1時半～4時

場 所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されれば、お迎えに参ります。

議 題 1、「環境問題について、昨今、想うこと」

挨拶 坂本忠彦環境技術委員長

2、深海熱水噴出孔のエネルギーによる生命誕生との関連性

解説 中村龍平東京工業大学地球生命研究所教授

3、『環境技術関連ニュース NO.174』

解説 中島稔科学技術部会長

報 告 去る10月23日開催の第351回環境技術委員会は、坂本忠彦委員長が議長を務め行われました。まず、坂本委員長より、「環境問題について、昨今、想うこと」と題して開会挨拶がありました。先週は中国に滞在していた。郊外はかなりスモッグがひどかったが、それに比べ北京はかなり改善されていた。だが、日本に比べればまだまだである。鉄道はセキュリティがかなり厳しい。日本の新幹線に乗るのにまったくチェックがないということは治安のよさの表れととるか、危機意識が低いと取るかは人それぞれだろう。さて、今回の議題はCO2から有用物質をつくる技術であるが、温暖化の元凶とされているC

O2を削減できる技術の可能性を見いだせば、地球環境全体の改善に寄与できるだろう。

次に、清原淳平専務理事より、野崎京子東京大学大学院教授の経歴紹介がありました。次に、野崎教授より、「CO2から合成樹脂技術」について解説がありました。CO2は地球全体で年間3億t排出されており、現在の技術で削減に大きく寄与できる段階には至っていない。プラスチックをつくるには、低分子と呼ばれるエチレンから、高分子を作り出すこと。エチレンの炭素原子の結合は二本の線につながっているが、これを外からエネルギーをかけることによって一本の結合にすればよい。そのエネルギーをより少なくするのが触媒の働きである。ここにCO2も加えられればベストだが、CO2は安定した状態なので、反応に多くのエネルギーを要し、本末転倒である。現状では、触媒を利用して加算に使うエネルギーを少しでも減らす方法をとるほかない。例えば、プロピレンオキシドとCO2から車のバンパーなどに使えるポリカルボナートを作る。CO2が43%含まれており、化石燃料を使う量をそれだけ減らすことができる。

次に、中島稔科学技術部会長より、『環境技術関連ニュース No.173』の解説がありました。今回は、〇なぜ今年「非常に強い」勢力の台風が上陸するののかという解説。進路を決める太平洋高気圧の縁が日本列島に迫るように張り出しており、海水温も上昇傾向にあるという。〇国連気候変動に関する政府間パネルは30年にも地球の気温は1.5℃上昇すると警告。さらに干ばつや熱波に数億人が襲われる可能性も示唆。一方トランプ氏はこれに懐疑的な見方を示す。〇赤土で水質浄化技術。〇人工光合成でプラスチックやゴム製造技術。〇中川環境大臣(当時)、G7でバイオマスプラスチック出荷量を50倍にする目標掲げる。〇探査船「ちきゅう」による南海トラフ掘削プロジェクトによって、地震発生の瞬間を検知し、防災に役立てようとする取り組み。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

★レクチュアにつき、当日会費千円にご協力をお願い申し上げます。

次回、11月22日(木)の環境技術委員会に

出・欠 (いずれかに〇印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

非会員で参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その際の当日会費は二千円となります。)

事務局宛FAX 03-3507-8587

公益財団法人協和協会 03-3581-1192 時代を刷新する会 03-3272-4320

ホームページ <http://www.kyowakyokai.or.jp> Eメール shigeta@jidaisassin.jp